

地域ゼロカーボン ワーキンググループ



脱炭素社会の実現のためには、将来世代の利益を最大化するための

複合的な価値を実現する地域の社会変革が不可欠です。

このため、各地域において人文社会科学から自然科学までの知見を総動員し、

各大学等が地域の「知の拠点」として自治体や企業等と連携した取り組みを推進することが求められます。

また、これにより実現した先進的な地域モデルを、他の地域や国・世界に展開していく必要があります。

大学等コアリション・地域ゼロカーボンワーキンググループは、以下を目的として設立されました。

大学と地域が連携した取り組みや、
その横展開やスケールアップ等を
支える知見を創出すること

その知見や実践を
大学・研究機関等の中で
共有すること

各地域の取組を通じて
抽出された課題等の共有や
議論・発信を行うこと

地域ゼロカーボンワーキンググループには、現在 **80** 大学・研究機関と **9** 企業が所属し、ワーキンググループ
会合やシンポジウム、先進事例を有する大学への現地視察などの活動を通じて、活発な議論を展開しています。



参加・協力機関 (2024年2月現在 / 50音順 89機関)

赤字は運営委員 下線は幹事大学

国立大学 (36校)	秋田大学、 <u>茨城大学</u> 、岩手大学、愛媛大学、 <u>大阪大学</u> 、 <u>岡山大学</u> 、香川大学、鹿児島大学、金沢大学、北見工業大学、九州工業大学、熊本大学、高知大学、 <u>神戸大学</u> 、埼玉大学、佐賀大学、静岡大学、島根大学、 <u>信州大学</u> 、千葉大学、 <u>筑波大学</u> 、 <u>東海国立大学機構</u> 、東京大学、東北大学、鳥取大学、富山大学、 <u>豊橋技術科学大学</u> 、名古屋工業大学、弘前大学、福島大学、 <u>北陸先端科学技術大学院大学</u> 、北海道大学、 <u>三重大学</u> 、 <u>山形大学</u> 、横浜国立大学、和歌山大学
公立大学 (11校)	岡山県立大学、 <u>北九州市立大学</u> 、高知工科大学、 <u>高崎経済大学</u> 、 <u>東京都立大学</u> 、 <u>東京都立産業技術高等専門学校</u> 、富山県立大学、長野県立大学、 <u>宮城大学</u> 、 <u>山梨県立大学</u> 、横浜市立大学
私立大学 (25校)	<u>愛知工業大学</u> 、青山学院大学、 <u>岡山理科大学</u> 、神奈川大学、関西学院大学、京都女子大学、京都先端科学大学、国際基督教大学、 <u>四国大学</u> 、芝浦工業大学、専修大学、創価大学、中京大学、 <u>中部大学</u> 、東邦大学、東洋大学、徳島文理大学、長崎国際大学、長崎総合科学大学、西日本工業大学、日本大学、日本工業大学、八戸工業大学、 <u>立命館大学</u> 、龍谷大学
その他機関 (8機関)	科学技術振興機構、国立環境研究所、サステイナブルキャンパス推進協議会、産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構、地球環境産業技術研究機構、 <u>地球環境戦略研究機関</u> 、理化学研究所
企業 (9企業)	株式会社球磨村森電力、一般社団法人Co、渋谷ブレンドグリーンエナジー株式会社、損害保険ジャパン株式会社、一般社団法人社会デザイン協会、日本電気株式会社、株式会社ベイシスコンサルティング、株式会社ポーラ、ミズノ株式会社

地域ゼロカーボンワーキンググループ

大学インタビュー 2022年度 2023年度 | 現地視察/シンポジウム

大学名や記事名をクリックするとそれぞれのインタビューに遷移します。

※赤字は幹事大学

地域ゼロカーボンワーキンググループ・人材育成ワーキンググループ 合同シンポジウム

2050年カーボンニュートラルに向け、地域で活躍する人づくり

2023.2

2022
静岡大学

堂園俊彦 先生
地域ゼロカーボンワーキンググループ参加大学への呼びかけ：組織的な取り組みを実現するにあたり、克服すべき課題を共有し、ともに解決への道筋を考えませんか？

2022
中部大学

福井弘道 先生
中山間地域の生物多様性、カーボンニュートラルと防災の同時達成に向けた中部大学のポテンシャル

2022
東海国立大学機構
名古屋大学

西澤泰彦 先生
カーボンニュートラル達成に向けた中核人材育成と産官学連携

2022
東海国立大学機構
岐阜大学

村岡裕由 先生

2022
岡山大学

阿部匡伸 先生
岡山大学の木造建築×林業×DXによる地域ゼロカーボンの取組

広島大学現地視察 2024.2
広島大学によるキャンパス及び地域脱炭素化の取り組み

金子慎治 先生
大学と民間企業と自治体との連携による脱炭素型まちづくりの試み

2022
広島大学

中藤良久 先生/安藤義人 先生 / 米澤憲一朗 先生/内藤裕之 様
工業系大学の地域貢献と研究活動のシナジーを生み出す仕組み

2023
九州工業大学

2022
信州大学

林靖人 先生/高木直樹 先生/
茅野恒秀 先生
中核自治体と連携したプレーヤーとしての大学の在り方

高木直樹 先生
地域連携の道しるべ
「信州大学と長野県、長野市との地域連携」

茅野恒秀 先生
地域連携の道しるべ
「信州大学と松本市との地域連携」

信州大学現地視察 2023.8
大学と地域はどのように連携を推進するか：信州大学のケース

地域ゼロカーボンワーキンググループシンポジウム (中部地域のステークホルダーによる)

協働による地域ゼロカーボン戦略を考える

2022.3

地域ゼロカーボンワーキンググループ・イノベーションワーキンググループ 合同シンポジウム

阪神地域から考える大学の研究シーズを活かした脱炭素化

2024.3

2023
愛媛大学

野村信福 先生
県内全20市町との連携と地域課題解決を目指す人材育成&起業家育成による地域脱炭素化の可能性

2023
北九州市立大学

井上浩一 先生/松本亨 先生/牛房義明 先生
マルチステークホルダーアプローチで地域脱炭素の理論と実践を繋ぐ研究を展開

2022
宮城大学

風見正三 先生/庄子真樹 先生
大学等コアリションへの期待—大学連携と地域共創による持続可能な未来の実現

2023
北海道大学

三上直之 先生 (インタビュー当時のご所属)
気候市民会議の可能性~成熟した市民社会構築に大学×地域が果たす役割~

2023
東北大学

中田俊彦 先生
脱炭素をエネルギーシステムのなかで捉え、左脳だけでなく右脳も鍛えられた人材の育成

2023
千葉商科大学

田中 信一郎 先生
腹落ちするまで徹底的な議論をして行政計画(温対計画)をつくって、担当課(タテ)に落とせば、自ずと回っていく

2023
千葉大学

倉阪秀史 先生
未来カルテとカーボンニュートラルシミュレーターで地域の未来を考える(仮題)

2022
東京都立大学

清水哲夫 先生
大学は産官学の地域連携をとりまとめられる「町医者」のような人材を生産できるか

2023
大阪大学

原圭史郎 先生
フューチャー・デザインによる将来世代を考慮した持続可能な意思決定の仕組み

2022
龍谷大学

白石克孝 先生
大学と自治体の連携による地域貢献型再エネ開発「龍谷ソーラーパーク」

2023
龍谷大学

深尾昌峰 先生
龍谷ソーラーパークに続く地域脱炭素化のための次のステップ：地域で公共性を支える人材のあり方や仕事のあり方をトータルでデザインし直す

2023
神戸大学

喜多隆 先生/土井祥子 先生
神戸大学の研究リソースを活用した地域脱炭素へのアプローチ—地域ゼロカーボンWGとイノベーションWGの協働の可能性—

大学による地域連携を考える

◆事務局

本日は大学等コアリション・地域ゼロカーボンワーキンググループ (WG) の幹事大学の先生方にお集まりいただきました。この座談会 (3月1日午前) は、2月28日の大学等コアリション・5WGキックオフミーティング (オンライン)、29日の広島大学現地視察に続いて、またこの後イノベーションWGとの合同シンポジウムを実施する隙間の時間に設定しています。

[座談会に参加いただいた先生方] ※順不同

- 宮城大学 理事・副学長・教授 / 研究推進・地域未来共創センター長 風見 正三 先生
- 宮城大学 研究推進・地域未来共創センター 准教授 庄子 真樹 先生
- 信州大学 工学部 建築学科 名誉教授 高木 直樹 先生
- 信州大学 人文学部 人文学科文化情報論・社会学 准教授 茅野 恒秀 先生
- 信州大学 グリーン社会協創機構 コーディネーター 内田 考生 様
- 東海国立大学機構 名古屋大学 環境学研究科 教授 西澤 泰彦 先生
- 岡山大学 理事 (デジタルトランスフォーメーション・グリーントランスフォーメーション担当)・上席副学長 阿部 匡伸 先生

* 幹事大学のうち、東海国立大学機構 岐阜大学 脱炭素・環境エネルギー研究連携支援センターセンター長 村岡 裕由 先生はご欠席でした。

大学インタビューについて

◆事務局

まず、大学インタビューシリーズについてご感想をお聞かせいただけますか？

● 茅野先生

まずこれだけのインタビューを展開していただいたことに感謝します。我々もこれでつながったり、情報を得たりすることができました。

大学がこういう個別のテーマでつながるのは、実のところこれまであまり例がないと思います。例えば、研究では共同研究がありますし、教育という点でも連携がありますが、地域貢献、地域との繋がり連携というのは恐らくこれまで例がなく、そこが可視化されたというのはすごく大きいと思います。

ちょっと話がそれますが、11月に北海道に呼ばれて行って、35の自治体に、2日間のワークショップで実行計画の作り方をレクチャーしました。2～3週間前にその同窓会があったのですが、オンラインにもかかわらず大変盛り上がりました。11月の2日間で同じ悩みを抱えていることがわかって、リモートにもか



かわらず親近感があるんですね。たとえ離れていても、同じ志を持つ同士のお付き合いやネットワークが、全体の底上げにつながっています。大学も同じではないでしょうか。次のステップとしては、これまで2年間インタビューを実施して出てきた論点の解像度を上げていくことかと思います。

● 風見先生

これまでの各大学の3枚スライド、ワークショップ、インタビューを通してわかることとして、各大学が地域連携を進める窓口を置いていますね。宮城大学にも研究推進・地域未来共創センターがあります。各大学がどのような組織体制で、どのように機能しているかを比較することが出来たら面白いですね。

● 西澤先生

大学インタビューシリーズは、失敗事例も拾ってくれるとよいのですが。

◆ 事務局

ありがとうございます。そうですね、失敗事例もできるだけ含めたいのですが、聞き取りをしてもお話しづらいことや、原稿を確認いただく過程で削除されてしまう場合もありました。ちょっと残念なところもあります。

● 西澤先生

できればWG参加の特典として、WG内限定で見せてもらいたいですね。

● 茅野先生

失敗事例は、いろいろなところで散見されますが、表に出しにくい失敗をフォローアップしていくのが我々の仕事でもありますね。

地域連携をどう進めるか

● 茅野先生

今回の一連のイベントで大変刺激を受けました。やはり広島大学の事例はすごいと思いました。広島大学の事例からは、プラットフォームやコンソーシアムをつくるときに、中核となる事務局を1組織に任せるとうまく機能せず、プラットフォームで共創なり協働していくためには、プラットフォームの意思をつくる事務局レベルでの協働が欠かせないということが良くわかりました。

また、我々が松本市や長野県内でやっている連携と、形は違えど狙いは似ているなという感じを持ちました。何故形が変わっても狙いが似てくるのか、恐らく地域の文脈なり自治体の個性なりに合わせていくことで、また時間軸の取り方で、発現の形が異なってくるのではないかと思った次第です。

● 阿部先生

今回新しく幹事大学の輪に入れていただいて、先生方がどのように自治体と連携しているかがわかってきて、大変勉強になりました。そこで、地域連携について類型化した、チェックリストのようなものがあればと思います。例えば、これまでの経験でよくある失敗しがちな症状を例示して、そのような症状に陥っていないかをチェックするわけです。そうすれば早めに手を打つことができます。さらに欲張れば、症状を回復するための処方箋などが書かれていれば大変助かります。それから類型化をさらに一歩進めて、分解能



を上げた情報であればより良いですね。カーボンニュートラルの取り組みは地域との連携が重要であり、日本の津々浦々で取り組むことが求められています。しかし、必ずしも全国の大学が地域連携に長けているとは限りません。地域によっても違いがあり、ある地域で成功したアプローチが画一的に刺さるとは限りません。そこで、アプローチを分解・整理して、どの武器を持って戦おうか、といったことが分かるようになると役に立つのではと思います。

- 庄子先生 阿部先生の類型化についてその通りと考えます。脱炭素先行地域が増えていますが、よりローカルなところや、ローテクでないとうまくいかないところもあると思います。先日、徳島県の上勝町のゼロウェイストの取り組みを視察してきました。その地域を知り、その地域の特性を生かした取り組みが重要に思います。また、単独の地域だけではなく、広域での地域連携もあるのではと考えます。
- 西澤先生 ステークホルダーとの連携について一つ共有します。2022年3月に地域ゼロカーボンWGの「協働による地域ゼロカーボン戦略を考える」シンポジウムを行ったときに、中部経済連合会にパネルディスカッションのパネリストを依頼しました。この参加をきっかけにお付き合いが始まったのですが、連合会の中で、「言うだけではなくて、何かやらんといかん」という議論が始まって、会長以下、傘下の企業に至るまでのよいプレッシャーになるという波及効果を目の当たりにしました。やってよかったと思いました。

地域を支える人づくり

- 風見先生 地域脱炭素に向けて中核となる人材バンクが必要だと考えます。いろいろなところで人材が育ってきていますが、人材をどういうふうに関西に循環させるかがポイントです。脱炭素先行地域など進んだ地域もありますが、遅れているところもあるので、そうすることで地域脱炭素をきちんと全国に広める、ベースラインを広げていくことが重要だと考えます。
- 茅野先生 風見先生の人材バンクの話を受けて、大学のネットワークができたので、省庁や自治体のいろいろな部署が大学の知的資源をもっと使ってほしいですね。また大学側としても、そうした連携のノウハウを共有していくことができればと思います。
- 庄子先生 大学における地域連携の支援人材としてどうあるべきなのかを考えながら、一連の話を聞いていました。産学連携で外部資金を獲得したり、教員の研究シーズを把握してそれを地域につなげたりするユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター(URA)としての役割、また一方で教員が地元の地域をよく知らない場合に、地域と大学・教員をつなぐ地域コーディネーターとしての役割、そういういわゆるハブ的な支援人材が各大学に必要とされると思います。また、当初、URA=コーディネーターと考えていたのですが、また違う役割もあり、できればやはりそれを兼ね備えた人材が大学内にいるとよいと思いました。こうしたマルチタスクをこなす人材がその大学のリソースとして活躍すべきだと思います。

人材という点では、長野県では茅野先生がまさにハブとなっていると思いますが、茅野先生が各県にいないといけなくなってしまいますね。とすると、やはり各地域にハブとなる支援人材が必要なのではないかと思っています。
- 高木先生 今ずっと話を聞いてきて、いろいろな話題がありましたが、一貫して言えるのは、それぞれが孤軍奮闘している感がすごく強いということ。やはり情報をどのように出すかが大事で、失敗事例も含めて出せるものをもっとうまく出せないかと思っています。

また、大学の中で言うのであれば、教員が孤軍奮闘している部分をどうやってフォローしていくか。そのためには、地域連携が大学の仕事として大事なことだとアピールして欲しい、とりわけ若い教員・職員にとっては強くアピールして欲しいと思います。

他WGとの連携

- 西澤先生
以前大学等コアリションの全体シンポジウムにて、地域ゼロカーボンWGからWG間の連携をやろうと呼び掛けたときに、今回の5WGキックオフミーティングの発起人の北海道大学の山内先生が反応してくれたのを覚えていたので、28日のミーティング開催はとても嬉しく思いました。ただこれからは、WGが実態としてどう連携していくかを考えていかないと。これから長く続けていくためにはこのWGの連携が実体化しないとうまく発展していかないのではと思います。そのあたり、これは手前味噌かもしれませんが、全体シンポジウムのときに、他のWGの皆さんが地域ゼロカーボンWGに対する期待を示してくれたように思います。
これまでの他WGとの連携実績からすれば、他のWGから、「地域ゼロカーボンWGが核になってWG連携を進めてほしい」と言われるかもしれませんね。皆さん、覚悟をお願いします！
- 阿部先生
地域ゼロカーボンWGでも、自治体ごとにアプローチが違うというのと同じで、カーボンニュートラルを実装するときどこにどのような問題があるのかは手探りです。今回の5WGキックオフミーティングでは、国際WGから様々な国際的会議名やフォーラム名が沢山話題に上りました。素人の私には知らないものばかりで非常に有益な情報でした。WGの先生方にとっては常識なのでしょうが、他のコアリションメンバーには貴重なのではないのでしょうか？また、教育WGでは近々の内に教材を公開するために、著作権の処理に奔走しているとのことでした。著作権の問題は手間がかかりますので、その点をクリアした教材が提供されるということに期待が膨らみました。以上のような点は小さいことですが、個々のWGでバラバラに対応するのではなく、カーボンニュートラルという新しい課題設定をうまく使いつつ、これにどう対応するか、アプローチを皆さんで考えていきましょう、という連携のチャンスとして捉えるべきかと感じました。
- 茅野先生
地域はいろいろな要素を含んでいて、人材育成も入ってきますし、イノベーションも入ってきます。国際というところでも、地球全体としてインフラがまだ整備されていないところがある一方で、日本の場合は賢くたたく、スマートシュリンクを進めていかねばなりません。こうした中で、他のWGとも多様な接点が出てくるのだらうと思います。
- 西澤先生
最初の総会のときからずっと言っていますが、(大学等コアリションが終了する)2025年までに何をするかをきちんと決めずに来ているんですね。だから、2025年以降どうするかも含めて、今までに何ができたのかを、やはりそろそろ棚卸しすべき時期にきていると思います。失敗事例の共有も勇気があることですが必要ですし、先ほどの「あなたの大学は大丈夫ですか？チェックリストが欲しいと思いませんか」、というのを皆で共有し合っ、これであれば次も行けるね、という盛り上がりが見たいですね。

◆事務局 | 先生方、本日はありがとうございました。また引き続きよろしくお願いします。

地域ゼロカーボンワーキンググループでは、今後も大学インタビューを継続していきます。

これまでのインタビューの感想をお寄せください(疑問点、参考になった点、もっと深掘りしてもらいたい点など)。また、インタビューしてもらいたい大学や特定の先生のお取り組みがあればお知らせください(自薦・他薦を問いません)。

連絡先

大学等コアリション・地域ゼロカーボンワーキンググループ事務局
公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) 内 Eメール: r-zerocarbon@iges.or.jp